

希望・勇気・忍耐

【12月（師走）行事予定】 月訓『感謝』

1	金	2学期期末試験④	16	土	
2	土		17	日	
3	日		18	月	
4	月	2学期期末試験⑤	19	火	▼ 終業式
5	火	短縮授業（40分×6・7限）全校朝礼 献血	20	水	
6	水	献血	21	木	
7	木	執行部合同会	22	金	
8	金	▼ 常任委員会	23	土	
9	土		24	日	
10	日	第一種電気工事士技能試験	25	月	
11	月	短縮授業（50分×3限）	26	火	
12	火	競技大会	27	水	
13	水	芸術観賞会	28	木	
14	木	保健講話	29	金	
15	金	▼	30	土	
※ 1月9日（火）始業式			31	日	

～目標って大事だなあとつくづく思う～

2学期が終わりに近づくにつれ、学生の本分である「学習」がおろそかになっている生徒が増えている。1学期にはそのようなことを感じることはなかったので、おそらく進路が決まったことによる弊害だと私は考えている。もちろん早く決まることが悪いわけではなく、明確な目標がなくなり、卒業できればよいと漠然と残りの学生生活を送ることが問題である。

就職する生徒は、4月から給料をもらう立場になる。その額は先に入社している先輩とは違えど、いくらかはお金を手にする。新入社員とはいえ、いわばプロでなければいけない。

私は、大学4年生の7月に、ある学習塾から内定をいただいた。そこから入社するまでに先輩から言われ続けたことがある。

「4月になったら、君は私と同じ塾講師である。授業を受けに来る生徒の保護者からは同じ額の月謝をいただくわけであるから、君と私で授業の質が変わってはいけない。そのつもりで残りの大学生活を過ごさない。」

その学習塾の看板教師の先輩とひよっこの私、そんな無茶なことをと当時の私は思ったのだが、保護者や生徒の立場になれば、同じお金を払うのなら、私より先輩に教わりたいと思うのは必然である。私は少しでも先輩に近づこうと、必要な知識、授業の技術等、先輩の授業を教室の後ろでメモをとり、それを帰りの車の中や生徒の来る前教室で反芻する、それを繰り返すことを残りの学生生活の中で自分に課した。

進学する生徒は、興味のある学問を大学や専門学校に修めに行くはずである。志望理由書にも、「貴学の〇〇〇という講義を通して、□□□を学びたい。」と書いた生徒は多いと思う。それはおそらく、大学に入学してから専門的なことを学び、成長したいということであろう。そして、それ自体は本音であろう。しかし、君たちの現状を見ると、「大学に入学してから頑張ります。」と言っているようにしか感じない。

「今、△△△について学んでいて、貴学の〇〇〇という講義を通して、さらに深く、□□□を学びたい。」

将来を真剣に考えている生徒は、今もこれからも頑張る意志を表現できる。一方で今頑張るといことが抜けている人は、大学に合格できれば終わりと思っている。だから、進路が決まった今、高校の学習がおろそかになっている。

なぜ、自分の成長を人任せ、大学に丸投げをしているのか。不思議である。

進学するにも就職するにも、ここから先は主体的な姿勢が求められる。誰かが教えてくれないからできないのではない。自分に必要なことを自ら学ぼうとする姿勢を身につけなければいけない。

私のクラスでは、武藤龍一郎先生が英語の単語テストを毎週行ってくれている。生徒は不合格になると叱られるから、必死で覚えてくる。しかし小テストをしないとすれば勉強をしてこない。このように先生のやる気を持って取り組んでいるうちは君自身の力ではない。なぜ大学入試で戦うための武器である英単語を自分の意志で覚えようとししないのか。

進路が決まっている生徒は、今なら自分の好きなことを学ぶことができる時間がある。英語系の大学に進学予定、もしくは大学在学時に留学したいのなら、1月に行われる「英語検定に合格する」という目標を掲げ、頑張ればいい。就職する生徒はビジネスマナーの本でも読んで日々実践すれば、確実に一步同僚と差を広げることができるはずだ。

最後に、世の18歳の半数は、1月13日・14日に共通テストを受験し、自分の進路を決める戦いに対して最大限の努力をしている。彼らのように目標に向け、主体的な行動のできる人の未来が輝かしいものになることを私は信じている。

【覚えておきたい数字】

今年もあとわずかになりました。卒業まであと〇日とカウントダウンも始まります。君たちにはまだ伝えたいことがたくさんありますが、今回も少しだけ。数字にかかわるものです。

- ① 第1印象「3秒」で決まる。
- ② 記憶は1日で「74%」忘れる。
- ③ 集中力は「90分」が限界
- ④ 行動は「30日」思考は「180日」で習慣化される。
- ⑤ 何もしない人「70%」行動する人「25%」継続する人「5%」
- ⑥ 心配事の「96%」は実際に起きない。
- ⑦ 聞くは一時の恥 聞かぬは一生の恥